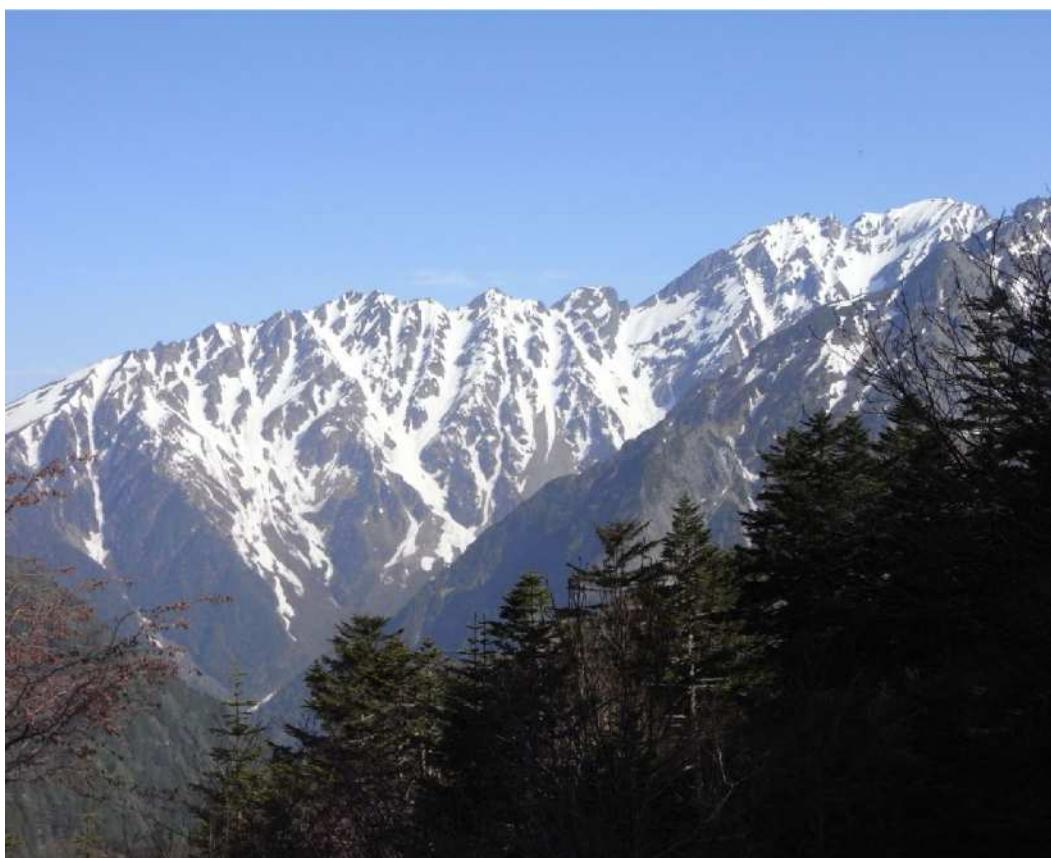


懐かしの
徳本峠

信州大学学士山岳会 徳本峠会
第10回記念



目 次

卷頭言 葛西 正美 2
心に残る風景 3
徳本峠の歴史と 徳本峠会 6
ルート図 (作成 : 松尾武久) 9
参加状況 10
会計報告 11
回別詳細報告 12
あとがき 30
付記 : 2007年デイリースポーツ掲載記事 31

卷頭言

徳本峠は上高地渓谷と島々渓谷の分水界にある標高2135mの峠である。古より明治期までは富山湾の海産物を飛騨高原川の谷を遡り、中尾峠を人の背によって上高地に入り、冬は徳本峠越え、夏は大滝山越えで松本に達する重要な物資輸送路であったと云う。

上高地を最初に世に紹介したのはウォルターウェ斯顿(Walter Weston)で上条嘉門次を案内人として、島々渓を遡り徳本峠を越えて上高地に入った。その後、小島鳥水等も同じ経路で徳本峠を越え、穂高を目指した。

上高地に到る路は釜トンネルが開通し梓川渓谷から上高地に到る路が出来るまでは、信州側から上高地に入るには、徳本峠が唯一の路であった。現在はあまり人の通わない静寂な渓谷である。

私が信州大学松本山岳部に入り、新人合宿で初めて島々渓を遡行、徳本峠を越えて上高地の小梨平に入ったのは昭和34年(1959年)の4月であった。当時は松電上高地線は現在の新島々駅の先の島々駅が終点で、そこから歩き始め島々宿から渓に入り、トロッコ軌道を歩いて二俣を経て徳本峠を目指した。私は岩魚留め小屋(当時は営業中)までは元気であったが、本谷から峠沢に移る辺りから地獄が始まった。

徳本峠に蹠蹠(よろよろ)と辿り着き穂高連峰の威容を目にして茫然となつた。そして地獄は頭から消え去った。時刻は午後の4時半であった。それから黒沢の雪渓を下り小梨平に着いた時は辺りが薄暗くなり始めた午後6時50分であった。その時から私の青春が始まった。

その後、往事茫々の47年の歳月が過ぎた頃、駒井浩氏・松尾武久氏の尽力で徳本峠越え山行が立案され、私も参加した。清浄な島々渓は昔のままであったが、やはり峠沢に移った頃からは地獄が始まった。蹠蹠と辿り着いた徳本峠では穂高が変わりのない姿で私を迎えてくれた。その夜、仲間達と高山良則氏以下の小屋の人達も一緒になっての酒宴は至福の刻となった。私は、こんな美味しい酒と肴は下界では、飲んだ事は無いと感激し酩酊した。

この徳本峠会山行は毎年続き、今年で10回目を迎えた。私は毎回蹠蹠って徳本峠に辿り着いているのであるが、回を重ねるたびに地獄が快楽に転じていく様な気がしてならない。

これも松尾氏、駒井氏を始め山の仲間の支えの御蔭である。昔の付き合いが今でも変わりなく続いている。私は良き朋友に恵まれている。多謝多謝である。

葛西 正美

心に残る風景



左 新徳本峠小屋

下 旧徳本峠小屋



改築工事



ランプと小屋のスタッフ





二輪草群落

二輪草



峠の下り



乗鞍高原鈴蘭



宴のあと



徳本峠の歴史と 徳本峠会

徳本(徳本)という名前の由来には諸説がある。

峠小屋のホームページによれば、

- ・ 上高地に徳吾の小屋があり、そこへ至る峠という意味
- ・ 徳本上人がこの峠路を越え、峠路の開発にあたった
- ・ 徳川將軍吉宗の付き医者に徳本(とくもと)という人がおり、吉宗が病気になったとき、この峠に来て薬草を集め、將軍に献じたため、その名前を当てた
- ・ 大正になって、地図に正式に徳本峠と記される以前は、「とくごう」とは徳郷のことであり、現在の明神館のあたりに徳郷の小屋が何軒かあったようです
- ・ 徳本峠遊歩道は梓川の支流・島々谷と上高地との間を結ぶ

である。

また、深田久弥は彼の著書「日本百名山」の中で徳本峠からの眺望を「峠に立った時、不意にまなかいに現れる穂高の氣高い岩峰群は、日本山岳景観の最高のものとされていた。その不意打ちにおどろかない人はいなかった。」と述べている。

1962年入学式で配布された「学生生活のしおり」によれば、山岳会は、大学における文化会、体育会、と並んでおり、会長に学長、副会長に各学部長を擁した組織である。

当時、山岳会は「伊那松本」「長野」「上田」の各山岳部に分かれて活動しており、我々は伊那松本へ入部した。

例年通り新人合宿に入ったが、大きな山行は初めてという人も多く、標高2,130mの徳本峠への上り(高低差1,430m)は非常に辛かった。

しかし、峠に登りついたときのあの景色・あの感激は、何十年経っても忘れられないほど素晴らしいものであった。

合宿の終わりは普通、上高地からバスで下山するのであるが、この年は土砂崩れでバスが不通となり、雨の中を徳本峠を越えて延々と歩いて帰ったのである。

それから45年経ったある日、当時の新人4人(小川、中村、神野、駒井)と新人教育係であった松尾さんが集まって飲んでいたとき思い出に花が咲いた。

その時に松尾さんが言った一言が徳本峠会の始まりとなった。

「その新人合宿の参加者全員に声をかけて同じ時に峠に集結しよう！」

経過

そして最初の呼びかけが行われた。

アラヨッ!!

私は、信州大学山岳部卒業生の駒井です。

去年、私は神野君と徳本峠を越えて上高地に入りました。

そして、峠からの素晴らしい景色に44年前を思い出し、感動しました。

今、私の手元に1冊の計画書とノートがあります。

それは、昭和37年度の信州大学山岳会伊那松本山岳部の新人合宿のものです。

44年前の5月27日～6月3日、あなたと私は同じ道を重いザックを背負って歩き、同じ釜の飯を食ったのです。

実は、今年の2月に松尾さん、小川君、神野君、中村君と5人で集まって飲みました。

そのとき、44年前の新人合宿(徳本峠越え)の話が出て、今年皆に声をかけて同じ時期に徳本を越えようということになりました。

ただ、全員還暦をだいぶ前に過ぎた身であることを考慮し、下記のように考えています。

皆さんからの返事を集めて、班構成・集合場所と時間等を決めたいと思います。

予算は、大体のところ松本集合から松本解散まで45,000円(酒代は別)と考えております。

恐れ入りますが早急に、参加してみたいか否かの返事をください。

およそ60名に連絡したところ、参加、不参加、連絡のつかなかったもの(故人を含む)が1/3づつであった。

第2回目からは、枠を広げ大勢に参加してもらえるようになった。

参加者は、10回で延べ212人に及びます。

10回皆勤が、4名おります。松尾さんは今年は写真による参加となりましたが、他に、葛西、板谷、駒井が全回出席です。

徳本峠会が10回も続いたのには、次のような理由があります。

まず、たくさんの人々に参加してもらえたこと。参加者に感謝します。

次に、多くの方々のご支援を頂けたこと。

- ・ 松本ツーリングホテル

一般の客よりも、かなり便宜を図ってくれる。

- ・ 前夜祭の「ものぐさ」さん

いつもの部屋の貸切、焼酎の差し入れ 等

- ・ 松本タクシーの倉田さん

タクシー会社数社に交渉した中で、倉田さんだけがゲートまで進入をOKしてくれた。

運賃についてもいつも便宜を図ってくださる。

- ・ 徳本峠小屋

2009年は、小屋改築のため休業中であったが、徳本峠会のため臨時開店してくれた。

毎回、徳本峠会の日は貸し切りとし、特別料理をふるまってくださる。

酒・焼酎はすべて差し入れして下さる。

何よりも、心から歓迎して下さる。

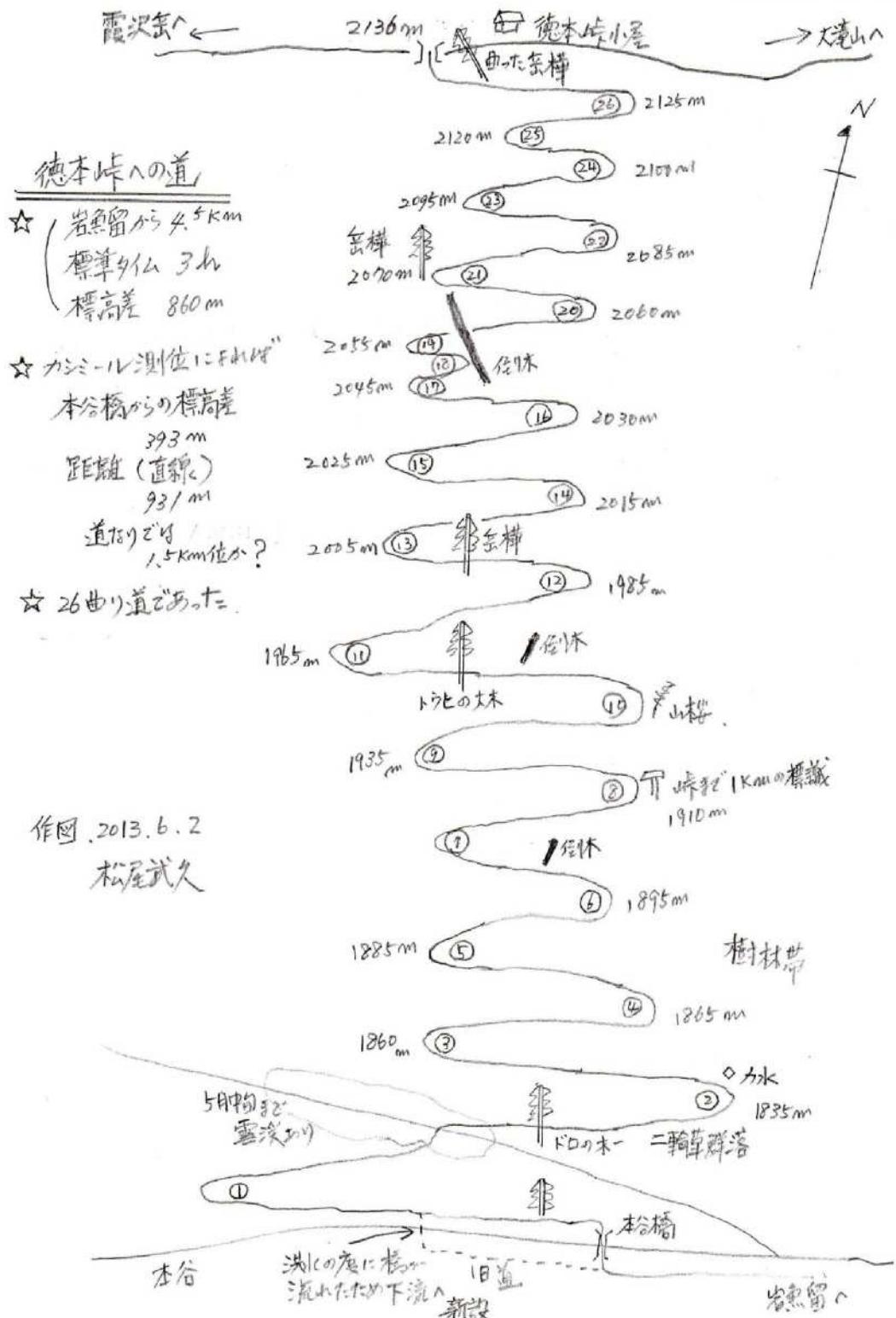
- ・ 乗鞍「ふれんず岡崎」

毎回、徳本峠会の日は貸し切りとし、特別料理をふるまって下さる。

徳本峠会を楽しみにしていて、心から歓迎してくださる。

これらの方々に、心から感謝します。

ルート図（作成：松尾武久）



参加状況

	第1回 2006	第2回 2007	第3回 2008	第4回 2009	第5回 2010	第6回 2011	第7回 2012	第8回 2013	第9回 2014	第10回 2015
荒井 富夫			◎							
池内 寛幸		◎		◎		◎	◎		◎	◎
(綾)石山 清子										○
石山 駿				◎						◎
板谷 真人	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
岩津 よしあ									○	
宇都宮 昭義				◎	○		◎		◎	◎
江川 信			◎				○			◎
大川 義博	○	○								
大島 いよ子				◎	◎		◎			◎
太田 全士		○								
大安 徹雄				◎		◎				
岡村 知彦		◎								
(綾)岡本 戯純										○
扇能 清									○	
扇能夫人									○	
奥鳴 啓志				◎		◎	◎	◎	◎	◎
小川 勝	○									
小原 武			◎	◎	◎	◎			○	
葛西 正美	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
笠原 敬一							◎	◎	◎	
金子 鉄男			◎				◎		○	◎
川崎 誠		◎	◎	◎						◎
川治 晴彦										
河原 洋				○		◎				
神野 国昭	◎	◎	○	◎			◎	◎	◎	◎
菊池									○	
工藤 伸樹	◎	◎		◎	◎	◎	◎			
高野 英太郎	◎									
古賀 聰				○						
小林 實			◎							
小林 元紀					◎	◎	◎	◎	◎	◎
駒井 浩	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小宮 良雄						◎			◎	◎
坂本 貴男				◎	◎				◎	
(綾)坂本 昌昭	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎
里屋 徹						◎	◎			
(綾)篠 豊子										○
柴田 武明		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
庄子 長純	◎									
新谷 剛	◎	◎	○	○	○					○
杉本 敏宏					◎	◎				
平 邦彦	◎				◎	○		◎		◎
田中 正治	○				◎					
出島 五郎	◎	○								
寺田 雅治	◎	◎	◎	◎						
中井 學				◎						
中田 茂										◎
中村 和夫			◎		◎					○
中村 武彦	◎	◎								
中邨 康文		○	○	○						
長島 妙子						◎				
長野 雄紀							○			
難波 良平								◎		◎
西郡 光昭									○	
福与 邦夫			○							
藤松 太一									○	
正木 嘉啓		◎								
松井 康彦	◎		◎							
松尾 武久	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
三森 武志			○							
宮川 先生					○					
宮崎 敏孝	○	○	○						○	○
武藤 一郎							◎		◎	◎
山崎 克則					○					
山田 和彦		○	○	○	○					
米倉 幸夫								◎		
小島 弾人						○				
田中 聖						○				
菅野										
佐々木 もも帆						○				
(綾)李 良輔	◎									
渡部 光則									◎	
参加 ○	20	20	23	25	19	20	20	13	24	26
総小計 ○	16	13	16	21	12	16	18	13	14	21
										160

会計報告

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
収入											
会費	36,000	35,000	38,000	30,000	35,000	34,100	35,000	34,000	35,000	37,000	
人数	20	20	19	25	19	16	18	13	24	26	
収入(部分参加含む)	597,800	458,000	587,000	624,000	381,000	453,200	587,250	381,000	591,000	739,700	
支出											
前夜祭	39,000	50,116	51,555	82,250	69,250	81,000	88,900	60,000	62,000	80,000	
入山タクシー	42,000	34,000	32,860	44,400	16,500	30,000	30,000	30,000	30,000	28,000	
峠小屋	164,000	145,000	160,000	220,000	120,000	170,000	200,000	150,000	140,000	204,200	
昼飯	0	0	0	0	0	0	0	29,850	28,200	32,000	
下山交通費	15,700	0	42,000	21,200	4,000	12,000	29,500	23,700	26,400	40,600	
ふれんず岡崎	180,000	150,000	190,000	220,000	100,000	120,000	160,000	90,000	250,000	242,000	
経費(含む慰靈祭)	45,100	22,584	17,586	6,849	4,750	9,050	4,925	5,700	800	0	
支出計	485,800	401,700	494,001	594,699	314,500	422,050	513,325	389,250	537,400	626,800	
差額	112,000	56,300	92,999	29,301	66,500	31,150	73,925	-8,250	53,600	112,900	
特別支出	1,300		120,000	50,630		65,000			75,000	71,236	
差し引き残高	110,700	56,300	-27,001	-21,329	66,500	-33,850	73,925	-8,250	-21,400	41,664	
累計		167,000	139,999	118,670	185,170	151,320	225,302	217,168	195,768	237,465	
利息					57	57	116		33	46	
繰越	110,700	167,000	139,999	118,670	185,227	151,377	225,418	217,168	195,801	237,511	
特別出費内訳											
1回 サマテン葉書代		1,300									
3回 山岳会 援助		120,000									
4回 田辺写真展援助		50,630									
6回 徳本峠小屋へパネル贈呈		65,000									
9回 岡崎猛氏お供え関係		75,000									
10回 松尾武久氏供花		21,600									
ふれんず岡崎雪かき代		18,216									
岡崎猛氏お供え関係		30,000									
額縁		1,420									
合計		383,166									

なお、徳本峠小屋は、アルコール代としてはビール代のみを受け取られ、お酒と焼酎は、徳本峠会への差し入れとして下さり受け取られません。

回別詳細報告

第1回

- ・日時：平成18年（2006年）

5/26 松本のツーリストホテル集合、ホテル食堂（タクト）にて前夜祭。

5/27 島々谷二股の先の吊り橋が危険で通行止めと知り、全員上高地から歩くことにする。

徳本峠直行組と、ひょうたん池往復後徳本峠に登る組に分かれて行動し、徳本峠で合流した。

小屋は貸しきり状態で小屋の人たちと一緒に深夜まで歌ったりしゃべったり。

徳本峠小屋のアルコールはすべて飲み干した。「誰か？明神館まで行って買ってこい。」

5/28 雨の中、峠を下り奥又白本谷出合の慰靈碑に向かう。

峠を下りきった頃から雨は上がり、一時太陽も顔をのぞかせる。

記念撮影の後、上高地へ出、乗鞍鈴蘭の「フレンズ岡崎」へまわる。

この晩は、夜を徹して飲み明かした。

5/29 位ヶ原へのバスが不通のため乗鞍山頂はあきらめ、有志数名が三本滝や水芭蕉を見て回った。

・参加者

徳本峠

板谷真人、葛西正美、神野国昭、工藤伸樹、高谷英太郎、駒井浩、坂本昌昭、庄子長純、新谷剛、平邦彦、出島五郎、寺田雅治、中村武彦、松井康彦、松尾武久、李良載
以上、16名

その他

大川義博、小川勝、田中正治、宮崎敏孝
以上、4名



奥又白出合



第2回

- ・日時：平成19年（2007年）

5/24 松本のツーリストホテル集合、ホテル食堂(タクト)にて前夜祭。

5/25 雨天であり、島々谷の橋が流されているため、全員上高地経由で入山。
徳本峠小屋に泊る。

5/26 今日は好天、奥又白出合いの慰靈碑に寄り、上高地経由で乗鞍にまわる。

5/27 解散。

- ・参加者

徳本峠

池内寛幸、板谷真人、岡村知彦、葛西正美、川崎誠、神野国昭、工藤伸樹
駒井浩、坂本昌昭、柴田武明、新谷剛、寺田雅治、中村武彦、

以上、13名

その他

大川義博、太田全士、出島五郎、中邨康文、松尾武久、宮崎敏孝、

山田和彦
以上、7名



第3回

- ・日時：平成20年（2008年）

5/29 松本のツーリストホテル集合、ホテル食堂(タクト)にて前夜祭。

5/30 前2回は拒絶された島々谷(岩魚留) 経由で徳本峠小屋まで入山。

天気もよく、快調。

5/31 奥又白出会いの慰靈碑に寄り慰靈祭後、乗鞍へまわる。

6/ 1 解散。一部は乗鞍散策。

- ・参加者

徳本峠

荒井富夫、板谷真人、江川信、小原武、葛西正美、金子鉄男、川崎誠、
小林實、駒井浩、坂本昌昭、柴田武明、寺田雅治、中村和夫、正木喜啓、
松井康彦、松尾武久
以上、16名

その他

神野国昭、新谷剛、中畠康文、福与邦夫、三森、宮崎敏孝、山田和彦
以上、7名





第4回

今回は、60周年記念事業の準備合宿を兼ねて開催した。

- ・日時：平成21年（2009年）

5/28 松本のツーリストホテル集合、「ものぐさ」にて前夜祭。

5/29 島々谷(岩魚留経由)と上高地に分かれて徳本峠小屋まで入山。

小屋も6月から改修工事が始まるので、我々が古い小屋の最後の客であった。小屋からTシャツをプレゼントされた。

5/30 Sレンゼ取付き偵察隊と奥又白出会い慰靈祭隊に分かれて下山。上高地から乗鞍へ移動。ふれんず岡崎で打ち上げ。

5/31 乗鞍で解散。一部は乗鞍高原散策。

- ・参加者

徳本峠

池内寛幸、石山駿、板谷真人、宇都宮昭義、大島いよ子、大安徽雄、奥嶋啓志、小原武、葛西正美、川崎誠、神野国昭、工藤伸樹、駒井浩、坂本貴男、坂本昌昭、柴田武明、杉本敏宏、平邦彦、寺田雅治、中井学、
松尾武久

以上、21名

その他

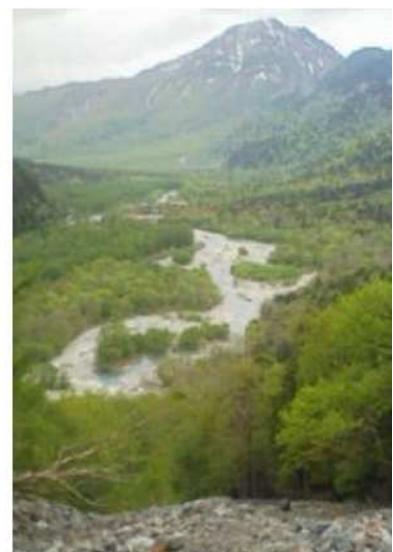
河原洋、新谷剛、中邨康文、山田和彦

以上、4名





Sルンゼ取付けにて



第5回

- ・日時：平成22年（2010年）

5/27 松本のツーリストホテル集合、「ものぐさ」にて前夜祭。

5/28 島々谷(岩魚留経由)と上高地に分かれて徳本峠小屋まで入山。過去最高の好天に恵まれた。

5/29 霞沢岳登山隊と奥又白出合い慰靈祭隊に分かれて下山。上高地から乗鞍へ移動。ふれんず岡崎で打ち上げ。

5/30 乗鞍で解散。一部は乗鞍高原散策。

- ・参加者

徳本峠

板谷真人、大島いよ子、小原武、葛西正美、工藤伸樹、小林元紀、駒井浩坂本貴男、柴田武明、杉本敏宏、中村和夫、松尾武久

以上、12名

その他

宇都宮昭義、古賀聰、新谷剛、平邦彦、宮川先生、山崎克則、山田和彦

以上、7名



第6回

- ・日時：平成23年（2011年）

5/26 松本のツーリストホテル集合、「ものぐさ」にて前夜祭。

5/27 全員、上高地から徳本峠小屋まで入山。

5/28 上高地側へ下山、奥又白出合いにて慰靈祭。その後、上高地から乗鞍
へ移動。ふれんず岡崎で打ち上げ。

5/29 乗鞍で解散。一部は乗鞍高原散策。

- ・参加者

徳本峠

池内寛幸、板谷真人、大安徽雄、奥嶋啓志、小原武、葛西正美、河原洋、
工藤伸樹、小林元紀、駒井浩、小宮良雄、坂本昌昭、里屋徹、柴田武明、
長島妙子、松尾武久
以上、16名

その他

小島弾人、田中聖、菅野、佐々木もも帆
以上、4名



第7回

- ・日時：平成24年（2012年）

5/24 松本のツーリストホテル集合、「ものぐさ」にて前夜祭。

5/25 島々谷(岩魚留経由)と上高地に分かれて徳本峠小屋まで入山。

5/26 霞沢岳登山隊と奥又白出合い慰靈祭隊に分かれて下山。上高地から乗鞍
へ移動。ふれんず岡崎で打ち上げ。

5/27 乗鞍で解散。一部は乗鞍高原散策。

- ・参加者

徳本峠

池内寛幸、板谷真人、宇都宮昭義、大島いよ子、奥嶋啓志、葛西正美、
笠原敬一、金子鉄男、神野国昭、工藤伸樹、小林元紀、駒井浩、坂本昌昭
里屋徹、柴田武明、平邦彦、松尾武久、武藤一郎 以上、18名

その他

江川信、長野雄紀 以上、2名





第8回

- ・日時：平成25年（2013年）

5/23 松本のツーリストホテル集合、「ものぐさ」にて前夜祭。

5/24 島々谷(岩魚留経由)と上高地に分かれて徳本峠小屋まで入山。

5/25 奥又白出合いにて慰靈祭。その後、上高地から乗鞍へ移動。ふれんず岡崎で打ち上げ。

5/26 乗鞍で解散。一部は乗鞍高原散策。

- ・参加者

徳本峠

板谷真人、奥嶋啓志、葛西正美、笠原敬一、神野国昭、小林元紀、駒井浩坂本貴男、坂本昌昭、柴田武明、難波良平、松尾武久、米倉幸夫

以上、13名





第9回

- ・日時：平成26年（2014年）

5/29 松本のツーリストホテル集合、「ものぐさ」にて前夜祭。

5/30 島々谷(岩魚留経由)と上高地に分かれて徳本峠小屋まで入山。

5/31 全員、上高地側へ下山。奥又白出合いで慰靈祭。その後、乗鞍へ移動。ふれんず岡崎で打ち上げ。

6/ 1 岡崎猛氏の1周期法要。その後、解散。一部は乗鞍高原散策。

- ・参加者

徳本峠

池内寛幸、板谷真人、宇都宮昭義、奥嶋啓志、葛西正美、笠原敬一、

神野国昭、小林元紀、駒井浩、小宮良雄、坂本昌昭、柴田武明、

松尾武久、武藤一郎 以上、14名

その他

岩津、扇野清、扇能夫人、小原武、金子鉄男、菊池、新谷剛、西郡光昭、

藤松太一、宮崎敏孝 以上、10名



岡崎 猛 氏 一周忌



第10回

- ・日時：平成27年（2015年）

5/28 松本のツーリストホテル集合、「ものぐさ」にて前夜祭。

5/29 島々谷(岩魚留経由)と上高地に分かれて徳本峠小屋まで入山。
好天に恵まれた。

5/30 全員及び途中合流の2輪草班と揃って、奥又白出合いで慰靈祭。
その後、上高地から乗鞍へ移動。ふれんず岡崎で打ち上げ。

5/31 乗鞍で解散。その後、岡崎猛3回忌法要。

- ・参加者

徳本峠

池内寛幸、石山駿、板谷真人、宇都宮昭義、江川信、大島いよ子、
奥嶋啓志、葛西正美、金子鉄男、川崎誠、神野国昭、小林元紀、駒井浩、
小宮良雄、坂本昌昭、柴田武明、平邦彦、中田茂、難波良平、武藤一郎、
渡部光則
以上、21名

その他

石山清子、岡本戦紘、篠豊子、中村和夫、宮崎敏孝
以上、5名

徳本峠にて





慰靈碑にて



嘉門次小屋の岩魚

奥又白出会い

新人合宿帰りの現役と共に



乗鞍鈴蘭にて



あとがき

「10周年記念誌を作ろう！」松尾さんが言い出したのはいつの頃だったか？こうやって編集をしてみると、ずいぶんいろいろなことを思い出します。「10年一昔」といいますが、10回ということは、皆、初回に比べて10歳も年をとっているのです。その間、本当にいろいろなことがありました。感慨ひとしおです。

10年間かけて築き上げた多くの方々とのお付き合いを、今後とも大切にしていきたいと思います。

この小冊子を、この会を発足し、存続させるためにご尽力くださった
故 松尾武久氏に捧げます。

最後に締めくくりとして恒例の「春寂寥」を歌いましょう。

信大山岳会会歌(旧制松高思誠寮寮歌) 春寂寥 1番・4番

AIN'S TSBAI DRAI

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | 春寂寥の洛陽に
傷める心 今日は我
この花陰にさすらえば
一片毎に 落る涙 | 昔を偲ぶ唐人の
小さき胸に懐きつつ
あわれ悲し逝く春の |
| 4 | 嵐は山に落ち果てぬ
榾の火赫くさゆらげば
冬を昨日の春の色
あかぬまどひのもの語り | 静けき夜半の雪崩れ
身を打ち寄する白壁に
あわれ床し友どちが
あかぬまどひのもの語り |

雨と風と男たち

76まで…かんれき少年登山隊

(第3種郵便物認可)

上高地の入口、雅人くんを接待する。季節は年月過ぎをさす。このとき、5月の末、美しい冬を一氣に姿を離した。駆け足ではなかつた。

自転車をやめじつた岩見を、よくも大らかに見下す西脇から奥郷の櫻高連峰。早くうそすの真ん中には解かりの梓川。河童橋……深い森の里には、梓の櫻。朱雀をまじめながつなづぶつぶの下頬、こゝソウ。山登るなんども頑張るために、春葉の跡からそつと涙じじうの顔をあそかす。

早になあ、さきさんトロップを引くさ田雅治の足は青筋なく刻む。明神から2135mの腹木峠まで標高差は600m。3分の1を越えたあたりから雪雲。重ねて徐々に激しさを増す。前を抜く男のりエク、木の柄のビシケルが胸を震わせる。

二本、入れなかま」。脚井の言が飛ぶ。同じくホソヒ的な喜氣が…。うるあ行ますよと目じるる脚進。星の聲を方角の男たちそれがそれは、つるぎ現れる。大狗のうちそくに轟け聲。これは45年前。目と目が合つて震わす。どうり。

なべせじには天下



州・信
本
峰

工事仲間がまた火を起す。木造。木屋を守りて工事仲間がまた火を起す。木造。木屋を守りて工事仲間がまた火を起す。

木屋を守りて工事仲間がまた火を起す。木造。木屋を守りて工事仲間がまた火を起す。

木屋を守りて工事仲間がまた火を起す。木造。木屋を守りて工事仲間がまた火を起す。

木屋を守りて工事仲間がまた火を起す。

元気

鶴子
佐野洋輔

山野が立ぐ。信州の真面目な花アルアスは東山に立た。信州大学山岳部OB。選手は手前で走り越えてきた。車ならいやう、僕らのやう。

「お、井井はさうの日のひりこだ。」が恥ぐ。昨夜から酒を控えている。上高地へ入る門高さ600mを突つかけるのだから。指さり「ひの隣りでは危険。コ

スを養え。明神から養さない。井井の姿勢は直立だ。

と寺田雅治(左)

△21 胜新太郎(65歳)

去。65歳。座頭中に云陰

やくざ、黒澤明監督とケンカ

事件△24 大馬鹿横断。世界初。

1730m△25 「沉默の世界」の姫洋

探検家J・クストー民死去。87歳△

40...50...60...70...80

10年前

△26 西校教科書燃定期。

從軍慰安婦で甚地に云陰

換え△27 横木謙吉(44)、車道

回燃費闇で第一船頭前会長ら逮捕。

付記：参加者である坂本昌昭氏が、2007年の「デイリースポーツ」全国版に2回に亘って掲載して下さった記事を添付します。

